

SNS教育プログラム レッスン2 学習指導案

1 単元名 SNSのコミュニケーションを考える

2 本時のねらい

- (1) SNSでのコミュニケーションを行う際に生じる相手との誤解や認識の違いに気付き、受け取る側の気持ちに配慮したコミュニケーションの在り方について理解を深める。
- (2) 相手の気持ちを考え、思いやりをもってやり取りしようとする態度を養う。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	○児童生徒のコミュニケーションツール等の利用状況について振り返る	(例) 「昨日、インターネット又はSNSを利用した人」 「どのようなアプリケーションを利用したか」を聞き取るなど、学級で、挙手させて利用状況を共有する。 (事前に実態把握アンケートを実施している場合は、その結果を共有してもよい) ・コミュニケーションツールは便利な点もあるが、気をつけなければならない点もあることを押さえ、本時の課題につなげる。
	SNSのコミュニケーションについて考えよう。	
展開	【事例】 ワークシートの事例を読む。	
	発問1：D子さんとE美さんの気持ちを考えてみよう。	
	○SNSでのやり取りを見て、まずは個人で考え、ワークシートに記入する。 その後グループで共有する。	・誤解が生じたことにより、お互いにつらい気持ち(不安やストレス)を感じていることを理解させる。 ・お互いの気持ちの相違に気付かせる。 (文字だけで情報を伝えるには、どんなに頑張っても伝えられる感情には限界があることに触れる。)
	発問2：どうして気持ちが伝わらなかったのか、理由を考えよう。	
	○なぜ誤解が生じたかを考える。 お互いにどのようなことを思ったのか、どうして誤解したのかをワークシートに記入した後、グループで意見を出し合う。	・相手の気持ちや思いを自分との関わりで考えさせる。
	○SNS上のやりとりでは、テンポが速いことに加え、文字だけの短い文で、文字だけの会話になるため、誤解や感じ方の違い	・ネット上で、文字によるコミュニケーションの特徴について確認する。

	(ズレ)が生じやすいことを再確認する。	【例示】 テンポが速い 短文 顔が見えないため、つい感情をぶつけてしまう
	発問3：このあと、どんなトラブルになるか予想してみよう。	
	○SNSでのやり取りを見て、まずは個人で考え、その後グループでその後の展開を予想する。 ・ネット上のトラブルは、現実の世界での人間関係トラブルに通じていることを理解する。	・感じ方の違いに気付かないままコミュニケーションを続けることが、トラブルにつながることに気付かせる。 ・誤解を生じさせるような表現や相手の感情を害するような表現により実際の学校生活において、人間関係のトラブルに発展していくこともあることを理解させる。
	発問4：どのようなメッセージを送ればトラブルにならなかったのか考えてみよう。	
	○どうしたら誤解が生じなかったか、D子さん、E美さんの意図を確認しながら、トラブルにならないメッセージのやり取りについて考え、ワークシートに記入する。 ○グループで話し合い、他の人の意見を聞いて、気付いたことをワークシートに記入する。 ○意見を共有する。 ・コミュニケーションの在り方について、話し合いながら、最適解を検討する。 ○相手とトラブルになってしまったときに、それ以上トラブルが大きくならないようにするために、仲直り（よりよい人間関係）を目指してできることは何かを考える。	・実生活の「対面のコミュニケーション」に置き換えて考えるよう助言する。 ・相手の気持ちを考えたコミュニケーションについて自分なりにまとめることができるように支援する。 ・相手の気持ち(受け取った人がどのような気持ちになるか)をよく考え、相手の立場に立って表現することが大切であることを理解させる。 ・情報のやりとりの中で、誤解が生じないように工夫しなければならないことを確認する。 ・ネット上でのトラブルの関係修復の方法について問いをなげかけ考えさせる。 (例) どちらの考えが自分に近いものですか？ ①SNSのメッセージで「ごめんね」と伝えて謝る ②直接会って話す ・解決しようとしても、さらに誤解が生じて関係が悪くなることもある。自分だけでは解決しにくい状況になった場合に、身近な大人に相談することも大切であることを理解させる。
まとめ	○本時の学習を振り返る ・コミュニケーションをとるときに、これから自分が気をつけることをまとめる。	・ネット上のコミュニケーションの特性を意識するように、考えをまとめる視点を示す。

		①誤解を与えないために気をつけること ②テンポが速い会話だから気をつけること ③イライラした感情になったときに気をつけること ・お互いに相手を思いやることが重要であることを確認する。 ・本時の学習を実生活に生かすように助言する。 ※学習用端末を使用したトラブルの発生も考えられる。安全・安心に端末を使用できるよう、授業の振り返りの場面で、意識付けを行うとよい。
--	--	--

4 評価

十分満足できると判断される状況

相手の立場を考え、適切なコミュニケーションの取り方について判断することができる。

努力を要する状況への手立て

他者の意見を聞くことにより、それぞれの立場によって、考え方や感じ方が異なることを理解させる。

5 実践するにあたって

(1) 概要

- ・SNS上でのトラブル場면을事例として取り上げ、相手が見えない文字だけのコミュニケーションの陥りやすい特徴を知り、衝動的な感情をコントロールすることの必要性を理解させるとともに、SNSのやり取りの疑似体験を通して、相手の思いを受け止めながら自分の思いや考えを伝える望ましいコミュニケーションのあり方について考えを深めさせるものである。

(2) 指導の方向

- ・心のすれ違いに着目させながら、お互いにつらい気持ち（不安やストレス）を感じていることを全体で共通認識した上で、非対面のコミュニケーションでは、対面の時と比べ、相手の状況を判断する情報が乏しく、相手の意図や状況を理解しづらく、トラブルが生じやすいことを再確認させたい。
- ・メッセージを送るときには、相手の立場で読み直して正しく伝わるか確かめてから送ること。また、メッセージを受け取ったときは、相手が何を言いたいのか、相手の気持ちになって考えることも大切であることについて実感させたい。

(3) 工夫するとよい点

- ・事例のストーリーは、学習用に典型化されているが、実際に起きがちな事例でもある。児童生徒一人一人が自分のこととして考えることができる反面、事例の登場人物への感情的な批判に終始しないよう、グループ内での議論では教員が必要に応じて助言を与えるとよい。
- ・発展例として、1対1のやり取りではなく、グループ（複数）でのやり取りだった場合、第三者として、どのような対応ができるかを考えさせる発問をいれてもよい。

レッスン2

SNSのコミュニケーションを考える

年 組 名前

D子さんはE美さんとコミュニケーションアプリを使って、やりとりをしました。
しかし、トラブルに発展してしまいました。
どうして このようなことが起こったのでしょうか。

D子さん：「今すぐく落ち込んでるんだ」

E美さん：「大丈夫？明日話きくね」

D子さん：「面倒ならいいよ」

E美さん：「え？なに？話きくよ？」

D子さん：「もういい！もう話さない！」

E美さん：「は？まじ意味わかんないんだけど」

D子
さん



E美
さん

◆ D子さんとE美さんの気持ちを考えてみよう

D子さんの気持ち

E美さんの気持ち



どうして気持ちが伝わらなかったのか、理由を考えよう。

この後、どんなトラブルに発展してしまうか、予想してみよう



このあと、どんなトラブルになると思いますか？

- ◆ どのようなメッセージを送れば、トラブルにならなかったのかを考えてみよう。

D子さん	今、すごく落ち込んでるんだ	
		E美さん

- ◆ ネット上の文字だけのコミュニケーションの特性を理解して、これからコミュニケーションをとるときに気をつけることを、まとめよう

実際の生活に活かしたいこと